〔４番　水上雅廣　登壇〕

○４番（水上雅廣）

発言のお許しをいただきましたから、一般質問をさせていただきます。

今回は、今後のまちづくりについて。タイトルは大きいですけども、この１問だけです。自分で言うのもおかしいですけど、これをずっと見ていたら、自分で作って自分で読み返して、これはこれまでも何度もお尋ねをして答弁をいただいたこともあるなと思いながらですけれども、ただ、言葉を変えながらどうしても地域のことは気になるものですから質問させていただきたいと思います。

４点、１つ目が、スマートシュリンクという考え方について。２つ目が、公共施設在り方検討部会での検証について。３つ目が、宮川町内の各施設間の統廃合について。４点目が、道路交通網の整備促進についてということでお尋ねをさせていただきます。

最近、人口減少社会における先進的な自治体の在り方として、スマートシュリンク、賢く縮むということらしいですけれども、そういう言葉を耳にするようになりました。この考え方を念頭に、飛騨市の未来を見据えたまちづくりについて見解をお伺いしたいと思います。偉そうに「念頭に置いて」なんて書いてますけど、実際、私はパソコンとかネットの情報、それから本をちらっと読んで、こういうことなのかくらいの知識しか持ち得ていませんが、こうしたことが今の飛騨市のいろいろな事業の進め方、あるいは今後の飛騨市のまちづくり、そういったものにある意味必要になるのかなっていうようなことも思ったものですから質問をさせていただきたいと思ってます。

まず１つ目、スマートシュリンクという考え方についてということですが、人口減少を前提として、都市機能や行政サービスを将来の人口動態や財政状況に応じて賢く集約・効率化しながら、市民のウェルビーイングの向上を図ることで、持続可能なまちづくりを進めていくスマートシュリンクの考え方が注目をされているようです。昨年末、2025年11月には、全国知事会からもこの視点を地方創生に取り入れるよう、政府へ提言がなされたということをお聞きしております。

スマートシュリンクは、直訳すれば賢い縮小ということのようです。人口が減っていく地域で都市機能や行政サービスを広げ続けるのではなく、範囲を賢く絞り込み、住民の生活の質はむしろ高めていこう、ある意味、前向きな思想であるという認識を持っております。しかし、これを進める上で、統廃合の数値目標だけが先行し、集約先の受け皿、代替サービスの整備が整わない、減らすことだけが独り歩きするような進め方や合意形成を無視した拙速な手法では、住民は単に不便を押し付けられたというふうに受け止めて、地域への信頼と定住意欲がかえって損なわれてしまうということにもなりかねない。これが一番難しいところではないかなということも思います。

一方で、施設の管理運営、生活支援、地域交通、行政のデジタル基盤の構築など、これまで行政が直接担ってきた業務が委託や官民連携の形で外に開かれることで、地域の実情を知り、住民との信頼関係を持つ地元企業が新たな担い手となり、地域経済の新しい事業機会を生み出すという側面もあるということも記されておりますし、私もそんなふうなことを思ったりもいたします。

そこでお伺いをいたします。本市として、このスマートシュリンクという考え方に対し、どの

ような見解をお持ちでしょうか。また、単なるコストカットの縮小ではなく、本来の目的である住民の生活の質、ウェルビーイングの向上をどのように担保していくお考えか、基本的な認識をお尋ねしたいと思います。

２つ目に、公共施設在り方検討部会での検証後についてということで、今、飛騨市は公共施設の在り方検討部会というものを立ち上げられまして、視察を重ねながら何回か検討会をされております。その検証、定量・定性評価を終えて、実際の再編、要は廃止・縮小・民間移管ということですけれども、かじを切る際に、このスマートシュリンクという考え方から直面する課題をどのように捉え、進めていこうとされるのかお伺いをしたいと思います。

３点目、宮川町内各施設・機関の統合・廃止についてということですけれども、宮川町内においては、デイサービスセンターの統合、ＪＡ宮川支店、これは金融機関のほうですけども廃止、杉原診療所の廃止、さらには飛騨警察署宮川駐在所の河合駐在署への統合、こうした住民生活の安心・安全の根幹に関わる施設や機関の縮小が、昨年実施されたものから現在進められようとしているものまで相次いでおります。これらは、将来にわたる経営継続に対する財政負担や人員不足などが大きな理由として実施あるいは検討されているものと推察をしておりますが、しかし、民間や岐阜県の案件であるとはいえ、これは既に水面下での協議とか調整っていうことではなく、公にされておりますから、地域住民の目の前にある現実的な危機であり、いずれも町民にとっては日々の生活に直結する大きな不安要素ばかりだと思います。

行政サービスや生活インフラの統合・廃止に対し、住民の幸福感や生活の質の向上などはどのように図られていくのでしょうか。これから宮川町内における一連の動きに、市としてどのように受け止められているのでしょうか。私は、既に統合されたデイサービスセンターはともかく、他の施設は存続していただきたい、そのように願っておりますけれども、こうしたそれぞれの計画が実行された後、宮川町のまちづくりに対し市はどのような将来ビジョンを持ち、具体的な救済・代替策を講じていくのか、そうした観点から見解をお尋ねいたしたいと思います。

４点目、道路交通網の整備・促進についてということでお尋ねをします。宮川町内の生活に係る機能や機関は縮小・集約されることとなれば、他地域や中心拠点とを結ぶ命綱である道路交通網の信頼性向上が、これまで以上に重要になると思っております。今後のまちづくりとインフラ整備について、市の見解と具体的な対応方針をお伺いしたいと思います。あわせて、地域の守り手である地元建設業の持続可能性についてお伺いをしたいと思います。

本市において、建設業が災害対応や冬季の除雪において不可欠な存在であるということは、市も十分認識をされております。しかし、当然ながら会社ということですから、適切な利益が確保できなければ事業を継続することはできません。昨今の賃金の上昇ですとか、資機材価格の高騰に直面する中で、仮に毎年の受注量や額、こうしたものが同じであっても、実質的な利益は薄くなって次世代への投資や維持管理、社員の待遇改善に回す資金の確保は難しい状況にあるのではないかというふうに思っております。

また、本市において、民間の発注にある程度依存できる事業者は、そんなにはない、少数ではないかと思ってます。発注量もそれほど多くは見込めないのが実情ではないか。結果として市内の建設事業者は、公共事業に頼るところが大きくなるというふうに思います。公共事業は、単に事業者の利益のためにあるのではなくて、住民の福祉・教育・医療を維持する上で、道路を初め

とするインフラの整備・保全に絶対に必要不可欠な投資だというふうに私は思います。インフラの信頼性向上と、それを支え続ける市内建設事業者の経営安定に向けた公共工事の事業量確保について、市の見解と今後の見通しをお伺いいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市長　都竹淳也　登壇〕

△市長（都竹淳也）

４点のお尋ねをいただきました。順番に私からお答えを申し上げたいと思います。

まず１点目、スマートシュリンク、賢く縮むというまちづくりの考え方についてのお尋ねでございます。人口減少が進みます。そうすると、行政を支える人材、それから財源が限られてくるわけですね。現在の行政機能、それから公共施設、市民サービス全てを将来にわたって従来どおり維持していくことは現実的に困難だということは、これは論を待たないところであろうというふうに思います。こうした課題に対して、人口減少を前提に地域や行政の規模を、いわば賢く縮小させながら、利便性、住民の生活の質、これがウェルビーイングってやつですけども、このウェルビーイングを維持・向上させていくというのがスマートシュリンクの考え方であると考えております。飛騨市は人口減少先進地だと申し上げておりますが、この飛騨市のまちづくりや行政経営を考える上で極めて重要な視点であると思っておりまして、私自身はこの考え方に賛同しておるところであります。

国の地方創生2.0におきましても、人口減少を正面から受け止めて、人口が減少しても社会や経済が機能していくための適応策、あるいは自治体間の広域連携、官民連携、こうしたことを進めていく方向性が示されているわけでございます。また、全国知事会の提言でも、スマートシュリンクの視点を踏まえた社会機能、行政機能の再構築ということが示されておりまして、人口減少社会に対応する上で重要な考え方の一つになっておるというふうに認識をいたしております。飛騨市におきましても、第２期飛騨市総合政策指針におきまして、人口減少の中で生じる新たな課題に柔軟かつ迅速に対応していく適応戦略ということを掲げておりまして、これはスマートシュリンクと方向性を同じくする考え方だというふうに捉えております。

ただ、スマートシュリンクというのは誤解されがちなんですが、単に施設を廃止したりサービスを削減するということを目的としたものではないということでございます。大事なことは、市民生活に必要な機能を見極めて、施設やサービスの廃止・縮小が必要な場合にも別の方法、あるいは別の担い手によってその機能を確保していくということが重要だと思っておりまして、そうすることで市民の安心感や地域への愛着を保っていくということができるのではないかと考えております。ですので、人口が減少しても、市民一人一人が楽しく安心して、心豊かに暮らせる状態を維持し、それを高めていく、これはウェルビーイングの追求になるわけでありますが、これが見直しを進める上で欠かせない視点であると考えております。

具体的に飛騨市でそういった視点で何をやってきたかということを少し御紹介申し上げますと、河合町で稲越線の見直しを行いました。バスの利用者が非常に少ないということでありまして、通常でいくと廃止して終わりということになってしまうわけでありますが、これを乗り合いタクシーに切り替えております。実際に乗り合いタクシーに切り替えることで、利用者を維持し

ながら一定の利便性を保って、しかも運行コストを抑えて、現在もサービスが提供されておるということでございます。このようにサービスの提供方法とか、人口規模や利用実態に合わせてそれを変えていくことで、必要な移動手段を確保する、これこそが飛騨市型のスマートシュリンクの一例であるというふうな思いをしております。

また、ヒダスケ！もスマートシュリンクの一つでありまして、地域の中だけでは維持することが難しくなった活動を、市外の方や関係人口の力を借りて支えていくという取組でございます。これは活動を継続するだけではありません。新たなにぎやかさや交流が生まれておりまして、心の豊かさにもつながっておるということでありまして、これもスマートシュリンクの一例であるというふうに位置づけております。

今後、施設を集約するということが必ず起こってまいります。これは不可避です。しかし、施設を集約しても交通手段を確保するとか、出張型のサービスに変えるとか、あるいは対面とオンラインを組み合わせるとか、いろいろなことが考えられるわけでありまして、そうしたことを併せて考えていかなければいけないと思っております。やはり見直しを行う際には、地域の歴史とかこれまでの経緯、利用されている市民の皆さんの思いということを十分に踏まえる必要がありますので、こうしたことをちゃんと説明しながら十分に合意形成を図って、必要な機能と暮らしの質を確保するための見直しを進めていきたいということでございます。

それから２点目、公共施設在り方検討部会での検証後についてのお答えをいたしたいと思います。公共施設在り方検討部会は、飛騨市総合政策審議会の専門部会として設置されておりまして、維持管理費や将来の大規模改修費が高額となっている20施設を対象に、現在、今後の在り方を検討いただいているところでございます。対象施設を温浴、宿泊、スキー場、人工芝グラウンドのカテゴリーに分けまして、数値で把握できる定量的な指標と数値だけでは捉えきれない定性的な指標の両面から検証いただいております。今後、この結果が出ますと、施設の見直しに向けた本格的な議論に入っていくということになりますけれども、評価結果だけで機械的に廃止を決めるというふうには考えておりません。先ほど申し上げましたように、大切なことは、市民生活に必要な機能をどのような形で維持するかという視点でありますので、この考え方は検討部会の委員の皆さんにもあらかじめ私からお伝えをしておるところであります。

具体的には、各施設が現在果たしている機能や役割を整理した上で、今後も必要な機能を確保する方法を検討していただくということでございまして、他の施設への集約、１つは廃止しても、ほかで代替できるものがあればそちらに集約していくということがありますし、あるいは別のサービスに切り換えていくということもあります。それから民間など別の主体で同じ機能があれば、そちらの提供の継続ということも代替方法になっていくと考えます。また、やむを得ず廃止・縮小を伴う場合には、利用者の利便性の影響を和らげる方策も併せて検討するということにいたしております。

ただ、いずれにしても施設の見直しは先送りできない課題でございまして、これはしっかりと進めていく必要があると思っておりますが、個別の施設の最終的な方向性は、これは部会の検討結果、地域との協議を十分に踏まえて決定するものでありますので、現時点においてこうだというふうに申し上げることはできないわけであります。いずれにしても、スマートシュリンクの考え方の中の住民の生活の質の向上ということを念頭に、しっかりと検討してまいりたいと考えて

おるところでございます。

それから３点目、宮川町内の具体的な問題についてのお尋ねがございました。宮川町内でデイサービスセンターが昨年４月に統合いたしました。また、ＪＡ宮川支店については今年度末での閉鎖の打診があったということでございます。そして、飛騨警察署宮川駐在所につきましても令和11年度末での統合が計画されておるということですし、杉原診療所につきましても、今見直しの検討を行っておるということでございます。こうした住民生活に直結する施設・機関の縮小の検討が相次ぐ中で、これは皆様方に不安をもたらしておるということは重々認識をいたしておるわけであります。

市としては、こうした施設がなくなることで必要な機能まで失われることがないようにすることが基本姿勢でございまして、限られた資源の中でも別の手段や方法を活用して、地域で暮らし続けるために必要な生活機能を確保することが重要であると考えております。例えば、これまでも平成29年にＡコープが撤退をしました。その際に、これは宮川町の高齢者の皆さん方の声がありまして、私そのときにサロンを設けましょうということで、地域複合サロンを設けたわけであります。現在、これは今もしっかりと続けられておりまして、高齢者の皆さんが集まる楽しい場として定着をいたしております。これも、単にＡコープが撤退して終わりということではなくて、別の機能、別のサービスを始めることで心豊かに暮らせるということを実践した一例だということでございます。

ＪＡ宮川支店の見直しにつきましては、市民の皆様との意見交換会でお話を伺いまして、特に金融面での利便性の低下ということについての心配をする声を私自身も直接伺ったわけであります。その際に、私がその場で申し上げましたのは、ＪＡの金融機関が撤退をしましても、郵便局はユニバーサルサービスとして残る可能性が高いだろうと。そうすると、郵便局を活用することによって、必要な機能を代替できないかということを申し上げたところでございまして、今後、郵便局とも話をしながら、これは総務省の所管になりますので、国に要望することも含めて必要なことがあればしっかりと対応していきたいというようなことを考えておるところでございます。

また、宮川駐在所については、先日、区長会で私のところにいらっしゃいまして、地域からも県への存続要望を出したと。市からも県に働きかけをしてほしいというお話がございました。ただ、私そのときに、警察官自体も減少しておるし、県全体の見直しということが行われておる中での判断であるので、やむを得ない面があることは理解するんだということを申し上げた上で、ただ、地域の安全・安心を確保することは欠かせないという視点の中で、例えば、警察官ＯＢを市で雇用いたしまして、地域安全支援員のような形で配置することも考えられるのではないかということを申し上げたところでございまして、その際に国費による集落支援員という制度がございますが、集落支援制度を使ってこの仕組みを設けることができれば、御用聞き、巡回などを通じて地域の安全・安心を補完する方法になるのではないか。しかもそれは、国費を使うことによって市の財政負担を抑えてできるのではないかということを申し上げたところでございまして、その場ではとっさに言ったんですけども、我ながらいいアイディアだと思っておりまして、今、実際に具体化する検討を始めておるところでございます。

それから杉原診療所につきましては、患者数の減少と経営上の課題から廃止を検討するという

状況に現在ございます。一方で、長年にわたって地域医療を支えてきた重要な施設でありますので、地域住民の皆様の思いは十分に認識しておるところでございます。ただ、これは宮川診療所に資源を集中させるということに伴う見直しになっておりまして、宮川診療所に資源を集中させることで宮川町全体の医療の利便性をかえって高めることができるというところもございますので、これにつきましては、地域の皆様と丁寧に意見交換をしてまいりたいと考えておるところでございます。

また、他の施設を活用して地域の交流を支える取組ということもやっておりまして、今宮川振興事務所のロビーをもっと活用できるのではないかということも、所長に指示をいたしておりまして、ボランティアの方を中心に地域の特性を生かして住民の方と小学生などが気軽に参加するサロンをここで実施する、あるいはもう一つ、ＪＲ坂上駅の駅舎に併設しております「遊ｉｎｇギャラリー」の１室、これも以前に同じように活用できないかということを申し上げまして、集落支援員の方と地域の方々が語らう、あるいは物づくりを楽しむ場というのも、今、開催をいたしておるわけでございます。こうしたことも単なる縮小ではなくて、いろいろなものを活用しながら心豊かな場所を生み出していくという意味では、非常に重要な方向性だというふうに考えております。いずれにしてもですね、人口が減っていくことは間違いないわけでありますので、こうした取組を積極的に進めていくことを宮川町の将来ビジョンとして位置づけながら、地域の皆様方ともよく話し合ってまいりたいと考えております。

それから最後に４点目でありますが、道路・交通網の整備促進についてお答えを申し上げたいと思います。地域の生活機能が縮小・集約されればされるほど、議員御指摘のように他の地域とか市の中心部への移動が必要になるわけでありまして、地域を結ぶ道路・交通網の信頼性っていうのは一層重要になっておるということは言うまでもないことかと思います。そのためには公共事業量の確保、それから道路整備の必要性ということを併せて、しっかりと認識した上で取り組んでいくことは極めて重要だと思っております。その際に、地元建設業者の皆さん、災害時の対応、日常の道路維持、冬期の除雪など地域の重要な守り手であるわけでありまして、その存続のためにも将来にわたって持続可能な事業量を確保することは不可欠であると考えております。

ただ一方で、公共工事というのは、事業の必要性に応じて実施されるものでありますから、当然限られた財源の中で、国県の予算、事業の優先順位の中で決まってくるというものでありますので、事業確保のみを目的にして公共事業をやるというわけにはなかなかいかないということになるわけです。その中で河合・宮川地域においては、私自身こう見ておりましても、過去に大規模な災害を何度も経験しておりまして、相当の規模で事業が実施されております。小さい谷とかにも砂防の堰堤があったり、のり面の改良も相当されておりますし、その意味ではインフラ整備は着実に進んできたということです。そうした中でさらに事業量を確保していくということになりますと、これは市の事業のみならず、県とか国の事業が大きく関わっていきますので、やはり国道360号みたいな幹線道路はもちろんなんですが、それに加えて、地域の危険箇所とか改良が必要な箇所を適切に把握して、継続的に事業化の準備を進めていくことが重要だと考えております。いわば「弾込め」ってやつですね、これが非常に重要ではないかと思っております。そのためには、地域の声を踏まえまして具体的な箇所を選定しつつ、今後の要望活動に対応していきたいと考えております。

また、市としても、事業量の確保・維持に努めていく必要がございまして、もちろん市としてもやっていくわけでありますが、ただ、それだけでは事業量を確保するのは難しいわけでありますので、事業者の皆さんにも市内工事に限らず、他の地域の公共工事の受注とか、他の分野への進出、あるいはそうした経営基盤の拡大に努めていただくことも必要だと思っております。従来の事業者数とか事業量をそのまま維持するという考え方ではなくて、建設業界の中にも人口減少に対応した効率化や連携、受注範囲の拡大ということが求められるのではないかと思っております。こうしたことについてはなかなか難しい問題でもございますので、市、地域事業者が知恵を出し合いながら継続的に話し合って、もちろん今後の道路・交通網の整備の重要性ということはしっかりと位置づけながら、持続可能な形を模索していくことを考えていきたいということでございます。以上です。

〔市長　都竹淳也　着席〕

○４番（水上雅廣）

丁寧に答弁をいただいてありがとうございます。最後の建設事業関係ですけど、スマートシュリンクを進めていく上で、他事業への参入参加みたいなことはある意味できるんじゃないかみたいなことを、本にも書いてありましたけど、私も思うんです。市長も今同じように他事業への展開っていうことをおっしゃったので、そうした何か具体的に示せるような策というか、市として支援をしていったり、誘導していったり、そのようなことって何か考えられることはないですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

私、前職の県職員時代に、岐阜県の10年構想をつくったときにここの議論を結構したことがございまして、もう20年ぐらい前になりますので、随分前のことですが、建設業の福祉への展開というのは、一時非常に議論された時期がございます。建設会社の皆さんが、介護とかの施設をやっていくというケースが現実に全国でもございましたし、そういったことはたくさんあったというふうに認識してます。ただ、時代背景が当時と違いますので、今現在はまたそういうわけにはなかなかいかなくなってきてるということだと思いますが、その後、いわゆる林建と言われる林業に建設業から進出するということは、これも随分やられた時期がございまして、飛騨市内においてもその取組は積極的に進められております。ただ、これも建設会社の人手不足があったり、森林組合とのすみ分け等々の問題とかもあって、上手にそこはやられてきたという流れがあると思いますが、こういったことも一つだろうと思います。

それから、実際に地元の建設業の皆さんから、コンビニといいますか、物販の分野への進出の話もございましたし、現実に動いてるものとしては水力発電なんかも取り組まれております。全く関係ない違う分野に行くということよりも、地元に密着してるという側面で言えば、やっぱり地元の生活をよく知っておられる立場で、生活支援のサービスというものができるのではないかと思いますし、建設の技術という点で言えば、やはりそれを生かして貢献できる部分が今の森林施業だけではなくて、ほかにもあるのではないかというふうに考えますので、その辺りをまずは意識を広げてもらうということが大事だと思いますし、そうした事例については国土交通省でも、県でも把握しているのではないかというふうに思いますので、我々もよく勉強しながら紹介して

いくようなことも考えていきたいということでございます。

○４番（水上雅廣）

そんなようなお話を地元の事業者とも話したりするんですけど、なかなか積極的には出て行けないところもあったりして、でも将来的にそういうことはどうしてもやっていかなければ、今の雇用を支えるとか事業量の話って、やっぱり公共事業だけで支えるっていうのは厳しくなっていくだろうと思います。会社そのものは地域には絶対的に必要でしょうし、ほかの事業主さんも含めてですけども、そういったものを地域の昼間の人口ということも含めて考えれば、会社としても何か導ける動線があるのがいいなと思っていますので、できる限りの力添えをいただければありがたいなと思います。

今市長から福祉関係の事業参加みたいな話がありましたけど、ちょっと唐突になりますけれども、宮川町の保育園、保健センター、それからデイサービスセンター、あそこの近接するエリアにですね、全く利活用されてないわけではないですけれども、活用しようと思えばどれだけでも活用できるような施設だと私は思っているんですけど、宮川町に一番何が合うのかなと思ったときに、福祉の里みたいなことをあそこでできたらいいなと。福祉と言っても、障害福祉の関係で、あそこがそういう方々が過ごせるような居場所にならないかなみたいなことをふと思ったこともあります。ほかの事業体からも何か話があるのかもしれませんけども、一度そんなようなことを考えていただけるといいのかなと思うんですけれども、どうでしょう。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

今、小規模・地域共生ホーム型ＣＣＲＣっていう、昨年政府の骨太の方針で出た考え方の協議会が立ち上がっております。私、代表をやってるものですからいろいろな議論をさせていただいているんですが、何の話かっていうと、これから要介護高齢者が高齢者の減少局面になって、特別養護老人ホームとかいろいろなところに空きが出てくる。それを、例えば特別養護老人ホームで使っていた部屋なり、ショートで使っていた部屋なり、そのためのだけの用途ではなくて障害者のグループホームも兼ね備えていこうとか、いろいろな用途に使っていこうということを進めようという取組なんです。高市内閣になって急に勢いが落ちてしまって、今議論がスローダウンしてるんですが、ただ、非常にいい構想だと思っておりまして、それがもっと広がって、介護施設だけじゃなくて市が持ってるような施設を、いろいろなもので垣根を取り除いて使っていけるようにするというのは、大いなる方向ではないかと思っておるんです。

今、御提案の冬季集住のような、地域の皆さんが一人で住んでると不安なので、どっかへ集住するような形のイメージを今伺って、ちょっと思い浮かんだところではあるんですが、そういうのも一つだろうと思いますし、使える建物があれば、そういった方向を模索するというのも、それこそスマートシュリンクの一つの在り方だろうというふうに思います。飛騨まんが王国の宿泊施設がそれに使えるかどうか分かりませんが、例えば、個別の部屋があるものについてそういうことができるってこともあるのかもしれませんし、別にそうだと言ってるわけじゃないんですが、ただ、今回宮川小学校に保育園を入れて、この前も運動会へ行って、本当によかったと思ってるんです。保育園の子たちと小学生の子供たちが一緒に過ごすことがこんなにいいことかって本当

に思ってるので、やはり固定観念にとらわれずいろいろなものを融合的、複合的に使うっていう考えは、思わぬ効果を生むということを実感しておりますので、その辺りはできるだけ積極的に進めていけるように考えていきたいと思います。

○４番（水上雅廣）

ぜひ、いろいろな観点で有効に活用できるようなことを考えていただきたいなと思います。

戻りますけど、スマートシュリンクに対する市長のお考えはよく分かりましたが、エリアが、例えば飛騨市全体で考えるときと、宮川町であったり、河合町であったり、古川町、神岡町って旧町村単位で考えるとかっていうと、そのデザインみたいなのが変わるんじゃないかって思ったりするんです。やっぱり飛騨市って考えたときに、どうしてもどこかへ集中させながらっていうと、何となくコンパクトコンパクトシティーのイメージがちらっと出てきたり、私はそうじゃなくて、やっぱり旧町村単位というところの、少し規模の小さいスマートシュリンクっていうか、縮み方の検討を在り方検討部会の中でもしてもらいたいなと思うんですけれども、その辺りはどうでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

例えば、先ほどの機能統合のような話を考えたときに、全市で統合できるものとできないものがあると思います。例えば、医療機関ですね、先ほどの診療所の話。医療機関なんかになると高齢者の生活圏ってことを考えなければいけませんから、例えば古川町に全部統合するなんてことはあり得ないわけですよね。やっぱり診療所機能は河合町、宮川町にしっかり残していかなければいけないということになってくると思うんですね。

他方で、ずっと議論になっている温浴施設を大規模なものを全部維持するかっていうことになると、これはそもそも市民の人たちが日常利用するものではないということを考えると、まあそういう方ももちろん一部おられますけども、広く利用されているっていうわけじゃないってことになると、そういったものは全市的にどこかに集約していくとか、あるいは民間にお任せしていくということになってくるんだろうと思いますから、そこら辺は生活に近いところの距離感、要するに生活機能がどのくらいのエリアで求められるかによって中身が変わってくるんだろうなと思います。その中で、既存の施設を利用するってこともありましょうし、すごくコンパクトなものに何かをつけるというやり方もあるんだろうというふうに思います。例えて言うと、デイサービスのようなところに入浴のところがあったりしますよね、そういったものを、今っていうことじゃなくて将来的に少し拡張して、お風呂として使えるようにする。そうすれば、温浴施設がなくなっても非常に少人数の人たちはお風呂が楽しめるところになるということもあるかもしれないと考えると、やはり大事なことは、いかに固定観念を持たないか、発想を柔軟にするかということだろうと思いますので、そういった考えをしっかり持ち続けたいなと思います。

◎議長（澤史朗）

正午を過ぎましたが、このまま会議を続けます。

○４番（水上雅廣）

ぜひそういうふうに進めていただきたいなと思います。

在り方検討部会の２回目の資料が、議事録のような形で公表されています。温浴施設５施設について定量指標と定性指標でしたっけ、４分割のグラフが示されています。何となしにぱっと見ると、要はAに近いほうがよくて、下はちょっとどうなんだろうっていうふうに見えました。先ほど市長はそうじゃないっていうようなお考えで答弁をいただきましたからそうではないだろうと思うんですけども、あの表を参考にしながらやって、あれが目に入ってしまうと、考え方としてどうしてもこれが優先じゃないかみたいになるんじゃないかなと思ってちょっと心配をしています。その辺りは、先ほど市長が言われたように、うまくその地域の実態を捉えながらということを含めて調整をしていただける、そういうふうに理解をしておいてよろしいですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□建築管財部長（田中義也）

今ほど御指摘がありましたように、確かに定量指標と定性指標を議論いただいて位置づけは示させていただきましたが、これはあらかじめ検討部会の委員にも最初にお伝えしておりますが、ここでそういう位置づけになったからといって、これを基に優先的に残すとか、廃止するとか、そういう考えではないんですよと。今後、本格的な議論に向かっていくにあたって、あくまで参考としていただくために、施設間を比較していただくために位置づけをしていただく。あと、議論を深めていくための指標ですということをお伝えしておりますので、先ほど市長の答弁もあったように、それを基に単純に廃止とかを決めるわけではなくて、今後はその機能の必要性ですとか、その機能を代替できるものがあるかどうか、そういったことで今後の方向性を検討していただくようにしておりますので、ちょっと見た目はそのように見えるかもしれませんけど、委員にはちゃんと伝えさせていただいておりますので、市としましても在り方検討部会の今後の検討の進捗というか、議論の行方を見守っていきたいと思っております。

○４番（水上雅廣）

私たちばかりではなくって、職員の中でもそういうふうに認識をきちっと持っていただくようにお願いをします。どっちかというと、職員さんって見た目の中でこうなんだみたいなところを思われるかもしれませんから、その辺はお願いをしたいと思います。

それから広域の話が出ましたかね、実は先般、宮川町の区長会長と一緒に警察署のほうへお邪魔したときに、防犯といいますか、今警察のほうも広域のエリアでいろいろなことをされるのでというお話を聞きました。医療とか、警察の関係とか、道路整備の面もそうなんですけれども、広域っていう観点の中でどんなような進め方っていうか取組を今されておるのか、分かる範囲で結構なんですけども現状を教えていただければと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

警察がということですか。（水上議員「例えば医療関係。」と呼ぶ）分かりました。

まず、医療について言うと、飛騨地域全体で今議論をしておりまして、これは地域医療構想という国で10年以上前から取り組まれてきたんですが、それぞれの医療圏で医療の在り方を検討して、自分たちで一つの構想をつくっていくということだったんですが、飛騨地域はちょっと遅れ

ておりまして、全国的にも進度が遅い地域ということになっていて、そんな流れの中で、３～４年前から議論が進むようになってきました。高山市の田中市長が非常にリーダーシップを発揮されて、ここについて一生懸命取り組まれていて、久美愛厚生病院、高山赤十字病院の機能分化、どういう役割分担をするかということから始まって、その中で飛騨市民病院とか、各地域の医療機関がどういう役割をするのかというのは、まさしく今議論が進んでおるところです。

広域っていう形で言うと、今みたいな議論もあります。それからもちろん県は県で、今の警察の話なんかは県警のほうでいろいろな議論がされておりますし、土木とかそっちの事業については、具体的な話は一切ないというふうに承知していますし、あってもらっても困るわけですけども、そのように思っております。

ただ、やっぱり飛騨地域全部が人口が減っておりますので、人口の減り具合がこの前の国勢調査の数字を見ても、やはり下呂市はうちよりももっとカーブがきついというようなことがあったり、高山市も非常にカーブがきつくなってきているということを考えると、飛騨三市一村で広域での連携を考えていかざるを得ないということになってきてると思うんですね。これはもう喫緊の課題だと思っております。

なので、昨日もちょっと申し上げたんですが、今後いろいろな分野での連携が出てくると思うんですね。例えば介護保険がどうだとか、水道がどうだとか、あるいは給食がどうだとか、あるいは市の機能でも何かの部分を一緒にしていくということがきっと出てくるだろうと思います。今、具体にアジェンダとして挙がってるわけではないんですが、そういうことがあり得るということは考えながらいかないといけないということですから、今後、市の機能を全て維持していくということじゃなくて、できるだけ連携していくということを常に念頭に置いていかなければいけないっていう時代になってきたということでございます。

○４番（水上雅廣）

最後に、スマートシュリンクっていうか縮んでいく中で、いろいろなこと考えていかなければいけないっていうことがあるんです。お願いなんですけど、振興事務所長には申し訳ないんですけど、振興事務所へ行くたびに、かつて地域振興協議会、審議会の後を受けて協議会をつくってあったんですけど、それが途中から機能停止みたいになっていました。何とかそれを再編なのか、再組織なのか分からないですけど、してくれないかなということをお願いしながらいたんですけれども、やっぱりいろいろな事情があってなかなか難しいということでした。

ただ、今こうしてお話を伺っている中で、いろいろなことを町内みんなで考えていくっていうときに、今は区長に頼ってますけど、区長会はそういうところではまたちょっと意味が違うのかなということがあって、できればそういう組織を何とかもう一度進めてもらいたいなと思っています。そういうことを思うときに、市としても何とか人的なことであったり、例えばコンサルみたいなときの財政的な支援も含めて、再度動かしてもらえるようなことを少し誘導していただけるとありがたい。彼らの負担にはなるかもしれませんけれども、それがこれから考えていく宮川町や河合町の中ではとても大事なことなのかなというふうに思いますから、その辺りについて何か御支援をいただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

いわゆる小規模多機能自治組織ってやつだと思います。全国結構いろいろな自治体、地域で取り組まれておりまして、先進例も結構あります。高山市も実はまちづくり協議会が結構盛んですし、南砺市も小規模多機能自治では結構有名なところなんですが、私、飛騨市については、江戸時代から行政区というものががっちりやってきてるという歴史があったので、今まで小規模多機能自治のような組織をつくることについては、決して積極的ではなくやってきたんです。ただ、人口がある一定レベルを超えて減ってきたときに、やっぱりあらゆる機能を統合する必要が出てきてるのではないかってことを最近少し考えるようになりまして、まさしく宮川町の今回のケースは本当にそうなんですけども、やっぱりいろいろなものを複合させていくときに、担い手がバラバラだと維持そのものが難しいっていうことになってきているものですから、それはそろそろ考えなければいけないなって思いをちょっと持ち始めております。

ただ、これはどこかの真似をするっていうものではないと思っているので、この手のものは、よそのやつを真似すると必ず失敗するんですね。なので、飛騨市独自のいろいろなものを複合的に全部取り込んでやっていく、しかも役所もその中に入ってしまうようなものが何かイメージできないかなというのを少し考え始めておりますので、まだここで具体に何か堂々と述べられるようなレベルには達してないんですが、問題意識としては私自身も変わってきてますので、そこについては今後よく勉強していきたいと思います。

○４番（水上雅廣）

宮川モデルみたいなものをつくっていただければありがたいなと思います。以上で質問のほうは終わらせていただきます。ありがとうございました。

〔４番　水上雅廣　着席〕